

VJEP (Vietnam-Japan Exchange Program) 2018 ベトナムプログラム 活動記録

AAEE 学生アシスタント 大瀬朝楓 (上智大学総合グローバル学部2年)

AAEE 代表理事 関昭典 (東京経済大学教授)

Day1

VJEP 初日！今日からいよいよ約2週間の国際学生交流プログラムのスタートです。メンバーは、緊張とワクワク感が入り混じった表情の中、ベトナムの学生たちと素晴らしい経験や学び、思い出ができることを楽しみに成田空港を出発しました。フライトが遅れた関係で、ホーチミンの空港に着いたのは深夜。ベトナム独特の蒸し暑さと、張翹時間のフライトで日本メンバーには少し疲れも見えましたが、空港に迎えにきていたベトナムメンバーと初対面して、お互い少し緊張しながら挨拶をして、ホステルへ移動しました。ベトナム人と24時間ほとんどの時間を共有できるドミトリー生活の始まりです！



Day2



いよいよ、昨日から本格的にプログラムが始まりました！2日目の午後は、University of Economics, Ho Chi Minh City (以下 UEH) でオープニングセレモニーが行われました。日本メンバーは島唄を披露し、ベトナムメンバーは素敵な歌声と共にアオザイを着て伝統的な踊りを披露してくれました！また、夜はウェルカムディナーを開いてくれて、美味しいベトナム料理を食べながら会話も弾み、メンバーは交流を深めていきました！フライトの遅れもあり少し疲れがみえるものの、初日からメンバーがアットホームな雰囲気です、すぐに打ち解けていっているのが印象的です。これから

2週間、今回のテーマである「貧困と教育」に関して学びを深めながら、参加メンバーが一生の友達となれることを期待しています！

Day3



VJEP 3日目のプログラムは、午前中にベトナム陶芸教室が行われました！陶芸を作りながら、メンバー間の会話も弾み、新たな才能も発見することができました。それぞれ個性溢れる作品を作っていたので、出来上がりがとても楽しみです！

午後からは、今回のテーマである「貧困と教育」に関するプレゼンテーションを日本とベトナムの学生が行いました。各国の現状について知ることができたと同時に、プレゼン

後のディスカッションはとても盛り上がり更に学びを深めることができました。夜は、両国の国紹介パフォーマンスと文化交流フェアが行われました。お互いの国の文化を知る良いチャンスとなり、日本のユーモラス溢れる劇や、ベトナムの圧巻のパフォーマンスにはとても感動しました！最後に行ったゲームは大盛り上がりで、心の距離がさらに縮まったことを感じました。

日本メンバーの1人がVJEPのために参加メンバーの共通の挨拶として「ちゃおっす」という言葉を考えてくれました！ベトナム語のこんにちはである「xin chào(シンチャオ)」と日本語の挨拶「おっす」を掛け合わせた言葉です。メンバーの中で「ちゃおっす」は挨拶として確実に流行ってきています！



Day4

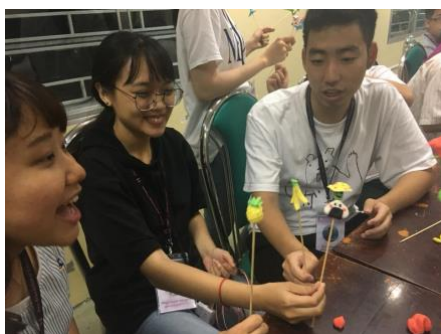


日本メンバーもベトナムでの生活に少しずつ慣れてきた4日目のプログラムでは、チームビルディングの活動が行われました！ベトナムと日本のメンバーがミックスになった4つのグループ対抗で、ホーチミンの市街地でクイズラリーをしました。ホーチミンの街並みを見ながら、各クイズポイントを探していましたが、クイズが想像以上に難しく、日本メンバーもベトナムメンバーも知恵を振り絞りながら悪戦苦闘していたのがとても印象的です。どのグループも1番にゴールしようと一生懸命取り組む、難しいクイズだったからこそ問題が解けたときの達成感は大きく、グループの団結力が強まっていきました！！ゴール後も両国の学生が集まり、自然とゲームを始め、終始和やかな雰囲気でした！

Day5

今日の午前中は、今回のVJEPのテーマである「貧困と教育」に関する講義をUEHの教授からいただきました。講義後は、貧困や教育の課題や解決策についてメンバー間で活発なディスカッションが行われ、このテーマに関して更に学びを深めることができたのではないかと感じています。

午後からは、ベトナム語のレッスンが行われました。これまでの交流を通して、ベトナムメンバーからいくつかのベトナム語を教えてもらっているメンバーもいましたが、このレッスンを通してベトナム語の独特な声調などを学ぶことができました。日本とベトナムメンバーがペアになって、楽しくベトナム語を学んでいる姿がとても印象的でした！



夜はToHe classと言って、ベトナムの伝統工芸をみんなで作りしました。それぞれ個性あふれる作品が完成して、作りながらメンバー間の会話も弾んでいきました！また、出来上がった作品で作られた寸劇は、ユーモアあふれるものばかりで終始、笑顔が絶えませんでした！

Day6



6日目の今日は、都市であるホーチミンからバスで約3時間離れた場所にあるビンフック省に移動しました。全ての荷物とメンバーを乗せたバスはぎゅうぎゅう詰めになりながら、移動中もみんなで話したり、ベトナム料理を食べたりしながらビンフックに到着しました！

午後からは明日のオープニングに備えて、日本とベトナムのそれぞれのダンスを練習しました。明日は、日本とベトナムのダンスのコラボレーションが見られるのがとても楽しみです！ダンスで汗をかいた後はホステルの隣にあるプールに皆で入り、思わず時間を忘れるほど楽しんでいたのが印象的でした！

Day7

プログラムが始まって早1週間。あっという間に折り返し地点となりましたが、この1週間で日本メンバーとベトナムメンバーの友情は確実に深まっていることを様々なシーンから感じます。この日の午前中は、ビンフック省でVJEP2018のオープニングセレモニーが行われました。盛大な音楽とともに会場に入場し、クオリティの高いオープニングアクトに思わず日本人メンバーも圧倒されました。また、オープニングセレモニーでは日本メンバーは文化交流として島唄を歌い、ダンスは日本の盆踊りとベトナムのダンスをメドレーにしたものを披露しました。前日の熱心な練習の成果が存分に発揮され、会場は大歓声に包まれていました！今回は、盆踊りや島唄を歌うこともあり、日本メンバーは浴衣や甚平でセレモニーに参加しましたが、ベトナム人に大好評で、セレモニー終了後は参列していた高校生と写真を撮る姿を見受けられました。



午後からはビンフック省の Bu Dang 地域に移動して、今回のプログラムにおいて最も重要な活動の一つでもある「貧困と教育」に関するリサーチについてメンバー間で打ち合わせをしました。両国のメンバーが協力しなければできない難しい調査ですが、能力とモチベーションの高いこのメンバーならやり遂げてくれると思います。今から楽しみにしています！



Day8

今日の午前中は、農場体験。荒れた山道を1時間強、ようやくたどり着いた先は熱帯ならではの農作物の宝庫でした。椰子、レモン、グアバ、マンゴスティン。日本ではお目にかかれない珍しいものばかり、ミカン食べ放題も加わり皆大興奮でした。しかし、楽しんでばかりいたわけではありません。この地域における農業とビジネスについても、農務局の方から真剣に学びました。地元テレビ局や新聞社の密着取材をされていたこともあり、参加学生は楽しみながらも緊張感に溢れていました。

午後からは、いよいよ、当プログラムの看板イベントでもあるホームステイ！10ヶ月間にわたって準備されたプログラムだけあります。入念な話し合いや調査を経て選ばれたホストファミリーだけあり、ベトナムの素晴らしさが凝縮されたご家庭ばかりでした。数日後、彼らが一体どんな素敵な思い出を持ち帰るのでしょうか。



Day9

今日は現地の小さな公立学校での教育実習でした。朝7時半に学校に到着すると既に全校生徒が集結していて、すぐに盛大なオープニングセレモニーがスタート。生徒たちが大きな声で「こんにちは！」「ありがとう！」と日本語で大声で挨拶してくれて思わずほっこりしました。一方で、このセレモニーには、なんと、ビンフック州知事が出席してくださり、私たちの国際交流プログラムの重要性を改めて感じる瞬間でした。



その後はついに授業！この日のために日本ベトナムメンバーは数ヶ月に亘ってそれぞれ準備して来たので気合いたっぷりです。午前中は日本メンバーが、午後はベトナムメンバーが主導して日越共同で指導しました。日本メンバーは、折り紙・書道・空手を子ども達に指導しました。子ども達にとって日本文化は未知の世界のように興味津々。言葉は通じなくても、超真剣に、楽しく活動に取り組んでくれました。何よりも子ども達の笑顔に励まされました。ベトナムメンバーは読書の大切さについて様々な工夫を凝らして教えました。テーマが難しかったため苦心する場面もありましたが、さすが高倍率の選考を勝ち抜いてきたベトナムメンバー。圧倒的なコミュニケーション能力で生徒たちを引きつけていました。

Day10

ビンフック省での最終日でした。午前中は貧困家庭でのインタビュー調査です。「貧困と教育」をテーマとする VJEP2018 において最も重要な活動の一つ。日本、ベトナム両国のメンバーが共に直前まで懸命に準備を重ねて臨みました。社会主義国であるベトナムにおいて、外国人が貧困調査に関わるのは容易なことではありません。それにも関わらず、政府の方々は真摯に協力してくださりました。調査した6家庭は S'tieng(スティン) 族という少数民族に属する方々です。



ベトナム人でありながら S'tieng 語しか話すことができないため、英語→ベトナム語→S'tieng でのインタビュー。困難を極めました。ベトナムメンバーと現地行政府のサポートのおかげで、有益な情報を数多く得ることができました。悲惨な状況にお互いに感極りインタビューを中止する場面もあり、改めて世界の貧困問題の深刻さを痛感しまし

た。貧困故にとっても辛い思いをしている方々が世界中には多くいるのだと改めて実感させられました。



午後からは、ホストファミリー対抗クッキングコンテストとお別れディナー。日本食を料理していると、現地方々は興味津々。一緒に料理したいというベトナムメンバーも続出で、コンテストでありながらも皆で和気あいあいと取り組むことができました。その後は、コンテストで作った料理を囲んでのパーティー！ホストファミリーとの最後の時間です。食事を楽しみながらもお別れが近づくにつれて、感傷的な雰囲気が漂って来ました。ホストファミリーは本当に素晴らしい方々ばかりで、参加学生は普段味わうことのできない体験を数多くさせていただきました。

Day11

今日はビンフック省から5日ぶりにホーチミンに帰ってきました。午後からは久しぶりに自由行動の時間があり、ベトナムメンバーとペアになってホーチミンでの観光を楽しみました！

今日の注目は何と言っても、ベトナム戦争の枯葉剤被害者で当機構の理事でもあるグエン・ドク氏とのミーティングです。

(日本では「ベトちゃんドクちゃん」として有名です。)不自由な身体でありながらも、戦争の悲惨さと平和の大切さを精力的に発信し続けているドクさんにお会いできることは、私たちにとって目玉の一つでした。実際にお会いしたドクさんはとても気さくな方で、「熱心な学生が好きとおっしゃり、私たちの質問にも一つ一つ丁寧に答えてくださりました。さらには、なんと、ドクさんは2015年に「Chau, Beyond the Lines」というドキュメンタリー映画で、アカデミー賞短編ドキュメンタリー賞を受賞したペイントアーティストの Le Minh Chau さんも連れてきてくださりました！この方も枯葉剤の被害者で体全体の奇形のためにドクさん以上に不自由な生活を送っています。外国でAAEEの活動をしていると、驚くほど有名な活動家の方が次から次へと目の前に現れるので本当に驚かされます。日本にいるとわからない驚きです。お話の中には、「自分のストーリーを語ることで一人でも多くの人にメッセージを送りたい」「自分と同じような状況にある子ども達にも障害を理由に夢や希望を失ってほしくない」というポジティブな言葉が多くあり、胸を打たれました。ドクさんとチャウさんの前向きで力強い生き方に感銘しながらも、枯葉剤の被害により障害を持ち、苦勞の多い人生を送っている人々のために私たちは何ができるのか、考えさせられました。



Day12



VJEP も残すところ3日となりました。今日は、ホーチミンからバスで北西に2時間ほどの場所にあるクチトンネルに行ってきました！クチトンネルは、ベトナム戦争時にゲリラ戦の根拠地とされた場所です。全長250mに及んで地下に張り巡らされたトンネルは、「鉄の三角地帯」という名に相応しい難攻不落の街だと思いました。当時使われていた罾やトンネルについて、一生懸命説明してくれるガイドさん。「ここには何がありますか？」と私たちに問いかけ、枯葉の下から急に出てきてのが、なんと、人が一人隠れられるほどの穴！米軍が攻めてきた時にすぐに隠れられるための穴だそうです。実際

に穴に入ってみた参加学生は「狭い！暗い！怖い！」と叫んでいました。当時、ベトナム解放軍がどのようにゲリラ戦を戦っていたのか、その壮絶さを肌で感じることでできる貴重な体験でした。

Day13



今日の午前中は、ビンフック省で行なった貧困調査の結果を4つのグループ毎に発表しました！昨晚の準備では、各グループに分かれて朝方まで一生懸命打ち合わせをしていたメンバー。寝不足のせいでかなり疲れた表情をしていたメンバーですが、プレゼンテーションが始まるといきなりモードチェンジ！各グループとも独自の視点で個性あふれる最高のプレゼンを披露しました。改めて、今回のメンバーの能力の高さ、そして2週間のプログラムで友情を深めたことによるチ

ーム力を実感しました！各プレゼン後の質疑応答も熱気に包まれ、学びの多いセッションとなりました。

夜は皆で日本食体験！久しぶりの日本食に日本メンバーも興奮！ベトナムメンバーも滅多に食べられない、お寿司や日本の料理に関して日本メンバーに聞きながらとても美味しそうに食べていました。食事の最後は、突然ドリアンを食べることに！ベトナム人にとっては「キング オブ フルーツ」と言われるほど人気のドリアンフルーツですが、日本人にとっては匂いが強烈な果物のイメージが・・・。「美味しい！」「臭い！」と大騒ぎになりました。



Day14

VJEP 最終日の午前中は孤児院を訪問しました。何ヶ月も前から私たちの訪問を楽しみにして下さった孤児院の方々。私たちが到着すると、子どもたちは満面の笑顔で近づいてきてくれました！一方で、前日にベトナム戦争博物館で戦争の現実を目の当たりにしたメンバーは、枯葉剤の影響により障害を持って生まれてきた子どもたちと現実接して、「ショックだった」「考えさせられることが多かった」と神秘的な面持ちで話していました。また、ボランティアとして活動しているフランス人の方ともお話しすることができ、一緒に布オムツを畳む体験もさせていただきました。



VJEP 最終日の午後は閉会式とお別れパーティー。初日のオープニングセレモニーを行った時と同じ会場で行われた閉会式。オープニングセレモニーの時に流れていた不安や緊張の空気はもうありません。「時が経つのはあっという間だね。明日の今ごろはもう一緒にいないんだね」と寂しそうに口にするメンバーたち。2週間で築かれた深い絆を感じました。夜は、皆ドレスチェンジして、夜景のきれいなビルの最上階ルーフトップでパーティーです。個性溢れる服装で、プログラム期間中にはあまり見ることのない大人っぽい雰囲気を醸し出していました。ダンスや歌のパフォーマンス、ゲームなどをして終始盛り上がっていました！しかし、終わりが近づいてくると一変。別れの寂しさに涙、涙、涙。最後は皆で肩を組んで円になり、静かに2週間の思い出に浸りました。

まとめ

初日から寝食を共に過ごした VJEP メンバー20 名。長いようで短い2 週間という時間が経つのは本当にあっという間でしたが、2 週間でかけがえのない友情関係を構築することができました。また、今回のプログラムのテーマである「貧困と教育」についての学びも交流を通しながら深めることができました。各グループの貧困調査結果のプレゼンテーションもとてもクオリティが高く、独自の視点で個性あふれていました。一緒に過ごした時間はわずか 2 週間でしたが、VJEP を通して培った友情が終わることなく 10 年後、20 年後も維持し、グローバルパートナーとして両国の架け橋、世界の発展に寄与してほしい！と願っています。

